

柏原市内遺跡群発掘調査概報

平成21（2009）年度

柏原市教育委員会

はしがき

平成21年度は柏原市の文化財行政にとって大きな変革点となる年でした。それは、柏原市の行政機構を考える上では積年の検討課題であり、文化財行政に携わるものにとっては長年の念願であった文化財課の設置が現実のものとなり、平成21年10月から教育委員会生涯学習部文化財課として再スタートを切ったことです。

こうした年に、考古学や古代史の専門家のみならず多くの市民からも待望久しかった烏坂寺跡（高井田廃寺）の史跡指定及び史跡整備事業がスタートすることになりました。年度途中からのスタートという慌しさでしたが、史跡指定に必要な測量調査や発掘調査を関係諸機関と調整しながら立案し、担当スタッフの人数の確保も儘ならない中で市民歴史クラブの方々にはボランティアとしての協力をお願いし、ようやく本年度の調査を完遂することができました。市民歴史クラブの会員諸氏には、この場を借りて改めて御礼申し上げたいと思います。

文化財課では、こうした新たにスタートした体制・事業はともかく、「文化財保護法」「柏原市文化財保護条例」を基に幾多の文化財に係る行政事務・調査・保存・公開・普及啓発などの業務を日常的に行っています。その中から、本書には平成21年度に実施した土木工事等に伴う市内の埋蔵文化財の発掘調査について、その概要を収録しています。

遺跡あるいは埋蔵文化財も含めて、市内に所在する文化財が柏原の歴史や文化などを理解するために欠くことのできない存在であり、将来における柏原文化の向上発展の基礎をなすものであることは言うまでもありません。今後とも柏原市の文化財行政に多くの方々のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年7月30日

柏原市教育委員会文化財課

例 言

- 1、本書は、柏原市教育委員会が平成21年度に計画・実施した柏原市内に所在する遺跡の発掘調査概要報告書である。
- 2、調査は、柏原市教育委員会社会教育課（10月～文化財課）主幹兼文化財係長（10月～文化財課長）北野 重・主査 桑野一幸・同 石田成年・係員 山根 航（嘱託）を担当者として実施し、本書には平成21年4月1日から平成22年3月31日の間に着手した発掘調査の概要を掲載した。なお、高井田廃寺（鳥坂寺跡）2009-1次調査については別に報告の予定である。
- 3、調査・整理の参加者は次のとおりである。（順不同、敬称略）
分才隆司 阪口文子 横原美智子 乃一敏江 橋口紀子
市民歴史クラブ
- 4、本書において使用した方位は、遺跡全体図は座標北、調査区位置図は磁北である。また標高の記述・記載があるものについてはT.P.（東京湾標準潮位）+値である。
- 5、遺構・遺物の写真は担当者が撮影した。
- 6、本書の執筆・編集は桑野が担当した。

目 次

はしがき

例言、目次

平成21（2009）年度柏原市内遺跡群発掘調査一覧

柏原市と掲載遺跡の位置

第1章 大泉遺跡	1
大泉遺跡 2009-1次調査	
第2章 太平寺遺跡	3
太平寺遺跡（太平寺廃寺） 2009-1次調査	
第3章 原山遺跡	5
原山遺跡（原山廃寺） 2009-1次調査	
附 章 河内国分寺跡	7
河内国分寺跡 2008-1次調査地の基準点測量	

写真図版

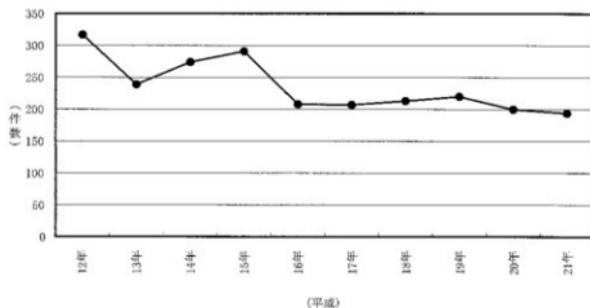
報告書抄録

平成21(2009)年度 柏原市内遺跡群発掘調査一覧

遺跡名 対象地（柏原市…）	調査回数	調査面積 m ² 対象面積 m ²	申請者 用途	調査日 (自・至)	文書番号 担当者	備 考
大県遺跡 2009-1 平野 2-233/251-1/ 他各の一部		4.00 334.68	個人 個人住宅	H21.7.6	211-1 石田	本書 2頁
原山遺跡（原山廃寺） 2009-1 旭ヶ丘 3-4829-5 の一部		6.00 180.50	個人 個人住宅	H21.9.3	211-2 桑野・山根	本書 6頁
高井田廃寺 2009-1 高井田 114-3/116-1/-2/ 他		97.50 1975.00	柏原市教育委員会 総調確認	H21.9.14 H22.4.26	211-5 桑野・山根	新たに講堂に取り付け回廊を検出した。
太平寺遺跡（太平寺廃寺） 2009-1 太平寺 2-362-1		2.25 203.28	個人 個人住宅	H21.11.20	211-4 桑野	本書 4頁

平成21年度において文化財保護法第93条第1項・第94条第1項にもとづく届出・通知がなされたものは194件、その中で発掘調査の指示は4件、立会調査の指示は11件、慎重工事の指示は179件であった。また、遺跡外の確認調査は7件であった。なお同法第99条第1項にもとづき着手した発掘調査は1件であった。

届出・通知件数の推移





- ① 大県遺跡
- ② 太平寺遺跡
- ③ 原山遺跡
- ④ 河内国分寺跡

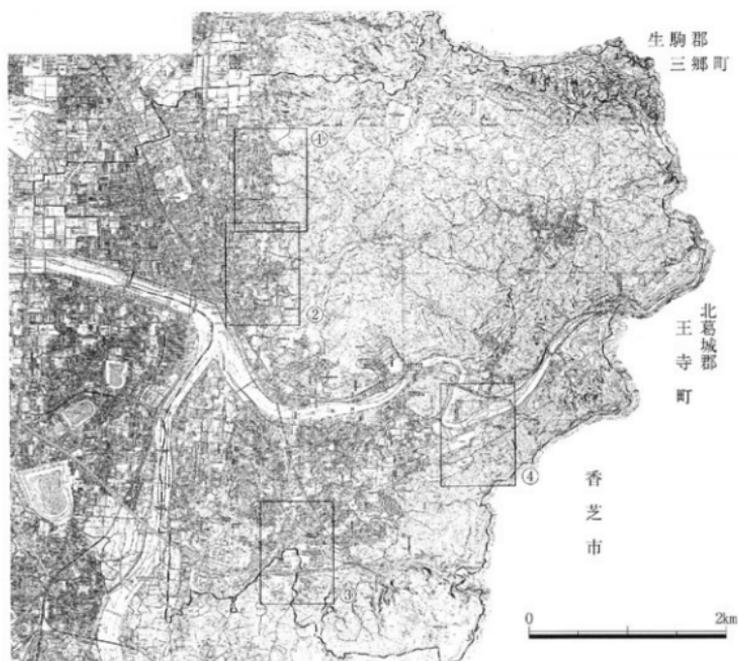


図1 柏原市と掲載遺跡の位置

第1章 大県遺跡



図2 調査地位置図 (図1の①)

大泉遺跡 2009-1次調査

- ・調査対象地 平野2-233/251-1/-3/1047の各一部
- ・調査期間 2009年7月6日
- ・調査面積 4.00㎡
- ・調査担当者 石田成年

大泉遺跡は生駒山地の西麓に営まれた縄文時代から連続と続く複合遺跡である。山裾から思智川に至る低平地にあり、東西500m×南北650mの広さがある。遺跡内には山地から流下する小河川によって刻まれた幾筋かの小河谷が認められるため、地形的には、谷筋で南北に分断された2～3の小地域に区分されている。

歴史的には、5～6世紀に操業した鍛冶工房を中心とする工房群は良く知られ、遺跡のやや西寄りや東高野街道(旧国道170号線)が南北に縦断し、その東側には、遺跡の南に大泉廃寺(大里寺跡)、北に平野廃寺(三宅寺跡)が営まれている。

今回の調査地は遺跡東辺のほぼ中央部に位置し、地形的には山地から低平地への傾斜変換点にあたる。遺跡全体を見渡すことができるような高い場所であり、対象地の西側・東側ともに高さ2m程の石垣が組まれている。この周辺では、これまでも何回か発掘調査が実施されており、ミニチュア高杯を数多く用いた飛鳥～奈良時代の祭祀遺構が知られている。

調査では建物予定地の東辺に1.5×1.5mの調査区を設定し、重機の提供を受けて地表下40cmまで掘削・精査した。その結果、遺物・遺構は認められず、土層は全て現代の整地土であることが判明した。

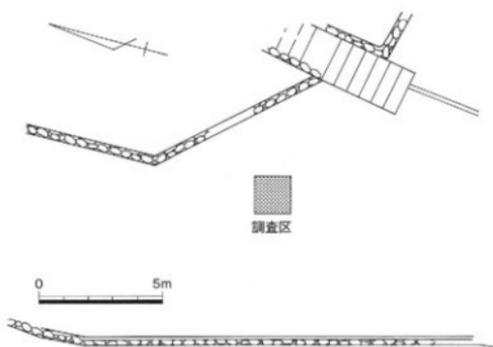


図3 調査区位置図

第2章 太平寺遺跡



図4 調査位置図 (図1の②)

太平寺遺跡（太平寺廃寺） 2009-1次調査

- ・調査対象地 太平寺2-362-1
- ・調査期間 2009年11月20日
- ・調査面積 2.25㎡
- ・調査担当者 桑野一幸

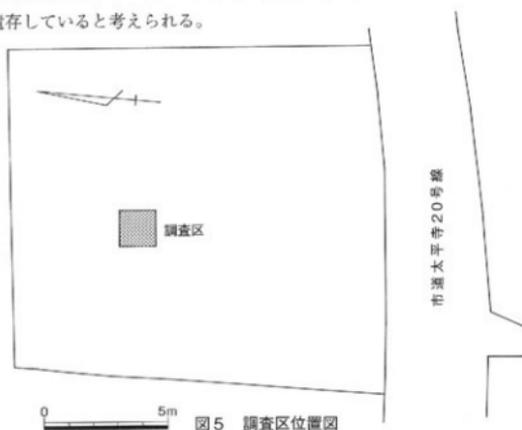
太平寺遺跡は生駒山地と大和川（あるいは思智川）の間に形成された低平地にあり、奈良時代の智識寺跡や中世の太平寺跡と推定される太平寺廃寺は遺跡のほぼ中央部に位置している。

調査地は、大阪府史跡に指定されている「智識寺金堂跡および東塔跡」の西側にあたり、双塔式伽藍配置と推定される智識寺の西塔の北側地域に相当すると考えられる。

調査は、1.5×1.5mのトレンチを設定し、全て人力で掘削・精査した。土層の堆積は、地表から順に1層（盛土層、礫が多い）、2層（暗灰色土層、粘性が強い、旧地表）、3層（粗砂層、粘土ブロックが多い）、4層（茶灰色シルト層、3層と4層の境界には鉄分が多い）、5層（青黒色シルト層）、6層（灰茶色シルト層、酸化鉄やマンガンが沈着、礫が多い、やや粗砂質、よく締まる、地山？）である。

遺物は無く、遺構としては、4層の上面で北東-南西方向の溝状・土塊状の落込みが見られたものの、特に時期が特定できる顕著なものは認められなかった。

調査地における各土層の標高を検討すると、地表面：18.33m、2層上面（旧地表面）：17.75m、4層上面：17.28m、5層上面：17.23m、6層上面：16.93mになる。また智識寺東塔雨落溝上面の標高は17.27mであることが既に知られている。これらの数値から調査地の性格を検討すると、少なくとも回廊に囲まれた伽藍中心部がほぼ水平であったと仮定した場合、基壇等の立体的構造物があったとすれば既に削平されていることになり、建物の間の区域とすれば寺院建立の際の整地的な土層の一部が遺存していると考えられる。



第3章 原山遺跡

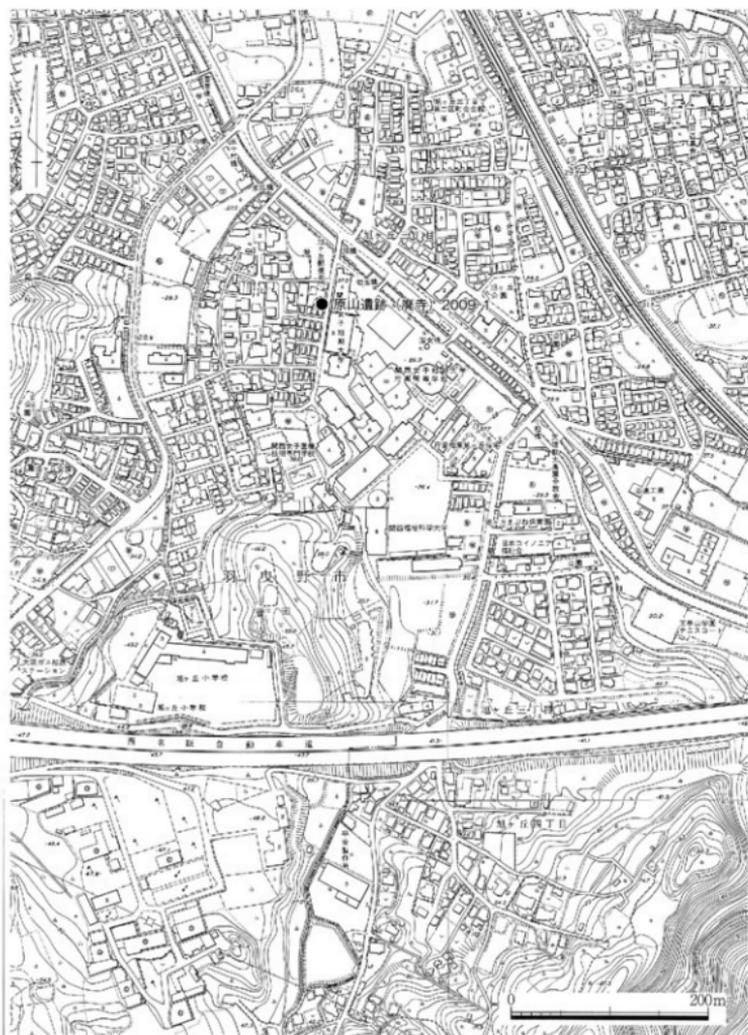


図6 調査地位置図 (図1の③)

原山遺跡（原山廃寺） 2009-1次調査

- ・調査対象地 旭ヶ丘3-4829-5の一部
- ・調査期間 2009年9月3日
- ・調査面積 6.00㎡
- ・調査担当者 桑野一幸、山根 航

調査地は原山遺跡の北西部にあり、想定されている原山廃寺寺域の北半部に位置している。

調査は、対象地南辺に沿った中央部に南北2m×東西3mのトレンチを設定し、地表下70cmまで全て人力で掘削した。

土層の堆積は、地表から1層：盛土（建築廃材を含む、20cm）、2層：旧表土（灰黒色細砂層、よく締まる、10cm）、3層：整地土（灰茶色中砂層、よく締まる、40cm以上）であり、3層の下部では湧水が顕著であった。

遺物は3層から時期不明の土師器片が3点出土した。

以上の様に、今回の調査では寺院に関連する遺物・遺構は検出されなかった。

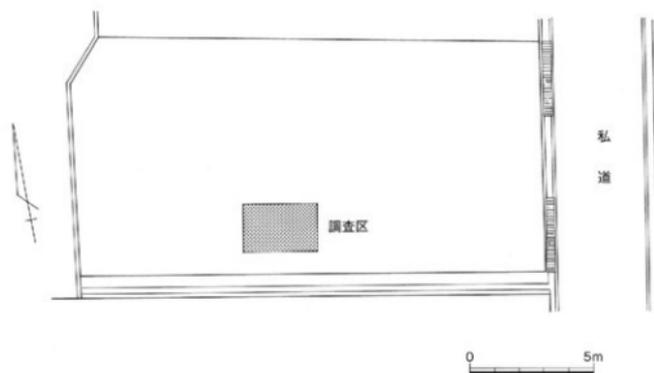


図7 調査区位置図

附章 河内国分寺跡

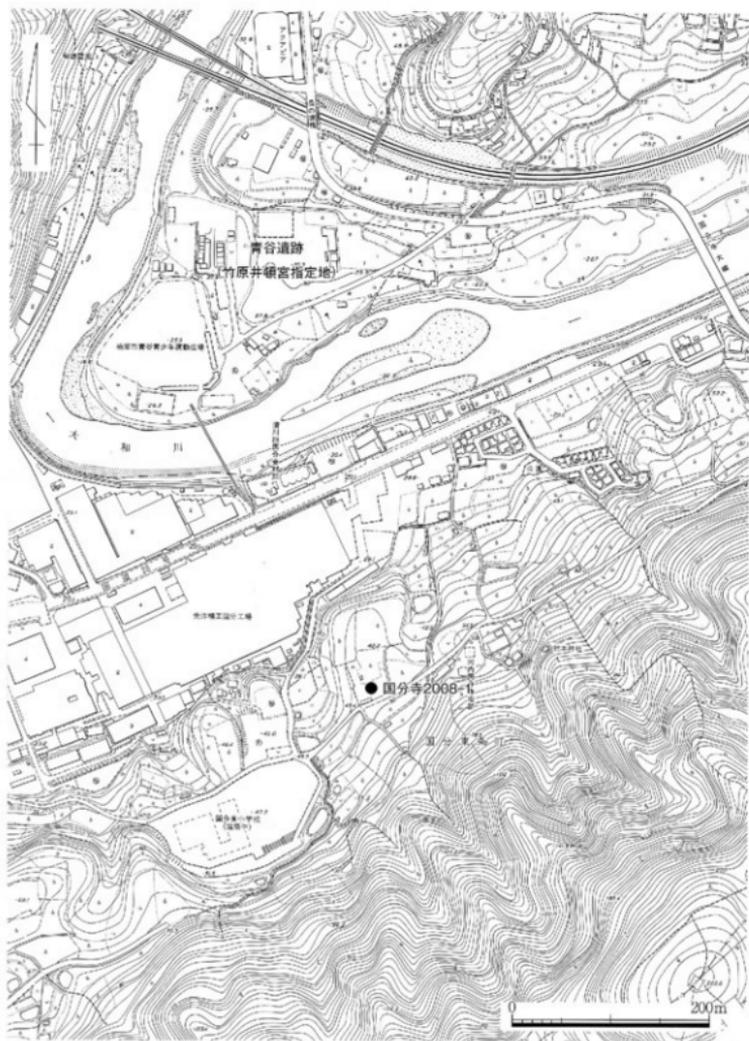


図8 2008-1次調査地位置図(図1の③)

河内国分寺跡 2008-1次調査地の基準点測量

- ・調査対象地 国分東条町3847/3848-1
- ・調査期間 2008年10月2日～2009年2月16日
- ・調査面積 89.00㎡
- ・調査担当者 桑野一幸、山根 航

河内国分寺跡では、2008-1次調査として当該地の発掘調査を行い、国分寺の金堂基壇と推定される凝灰岩切石の延石列や、これに先行する玉砂利敷と基壇状遺構を検出した。その成果は『柏原市内遺跡群発掘調査概報 平成20（2008）年度』として報告したが、今年度、測量用の3級基準点を設置したので、遺構平面図とXY座標（世界測地系、第VI系）の関係を下に示しておく。

この場所において、座標北は真北から0°12′西に振れ、磁北から6°59′東に振れている。なお図中において破線で示したS軸とW軸は従来の基準線であり、復元塔基壇の南北・東西軸を基にして、その心礎からの方向と距離が示されている。

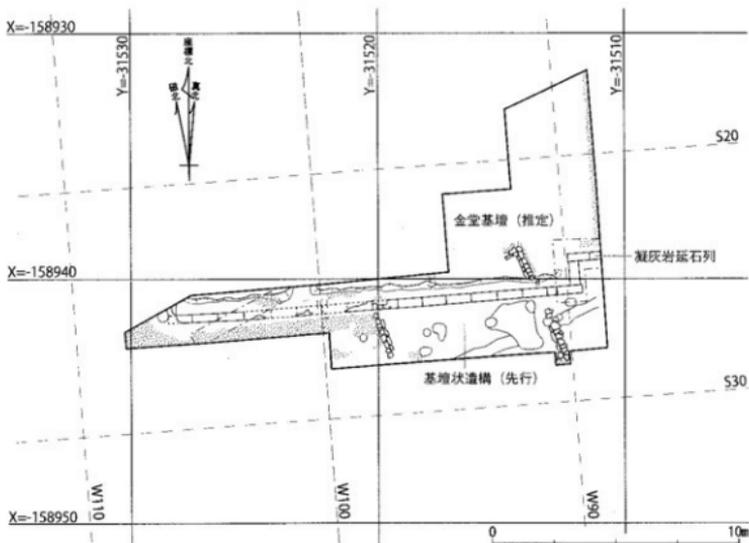
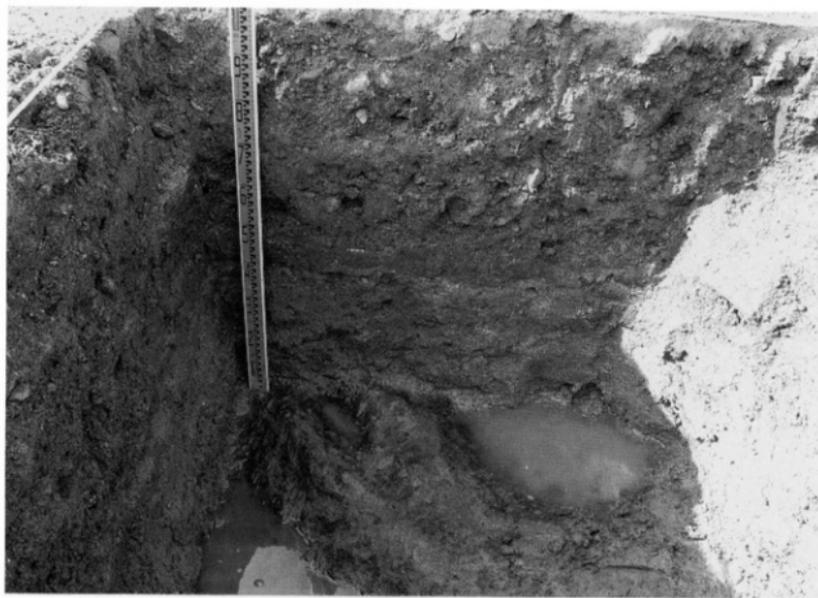


図9 2008-1次調査区全体図

写 真 图 版



調査地全景（南から）



掘削状況（北東から）



調査地全景（東から）



調査風景（南西から）



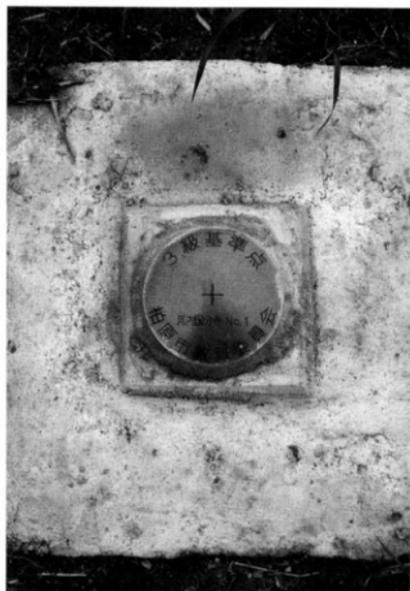
完掘状況（東から）



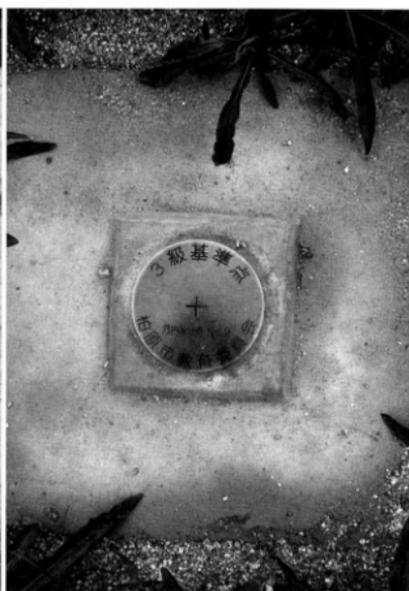
完掘状況（北から）



2008-1次調査 河内国分寺推定金堂延石列と先行基壇状遺構（東から）



2008-1次調査地 3級基準点No.1



同左 3級基準点No.2

柏原市内遺跡群発掘調査概報

平成21（2009）年度

発 行：柏原市教育委員会
大阪府柏原市安堂町1-43

発行日：平成22年（2010）7月30日

印 刷：藤近畿印刷センター

